様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０４３９１

研究課題名（和文）多民族・多文化国家シンガポールの美術教育における教育課程と国民統合に関する研究

研究課題名（英文）National Integration in Art Education Curriculum in Singapore; Multiracial and Multicultural Nation

研究代表者
佐々木　宰（Sasaki, Tsukasa）

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：４０２６１３７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，シンガポールの美術教育が多民族・多文化国家における国民統合の役割をもっていることに着目し，「エスニシティの可視化を通した自国美術の創出」という美術教育の特徴的な機能のモデルを導いた。
シンガポールの美術教育の教育課程には，多様な民族文化を教育内容として可視化しながら，これを現代的な世界美術の文脈で再解釈することを通して，国民的なアイデンティティを共有できる自国の美術文化を創出する機能が与えられていたことを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
多くの東南アジア諸国は植民地支配を背景とする多民族・多文化国家であり，国民統合は重要な教育課題となっている。美術教育は情操の陶冶や創造性の開発といった機能が想定されがちだが，本研究では多民族社会における国民統合に対する機能に着目し，シンガポールの特徴的な原理と方法論を明らかにした。従来あまり意識されてこなかった美術教育の機能の一端を示すとともに，多民族社会という状況における美術教育の方法論を示したことに学術的な意義がある。さらに，今後，多文化主義を背景とした教育の展開が予想される日本の美術教育に対しても示唆を与えるものである。

研究成果の概要（英文）：This study presents a model for a significant function of art education in Singapore: facilitating the visualisation of ethnicity and creation of national art. It focuses on the role of national integration in a multiracial and multicultural nation. The study found that art curricula in Singapore have served to frame various ethnic cultures as educational content, and to create a ‘national art culture,’ which has spread a sense of national identity by reinterpreting ethnic cultures in the context of contemporary world art.

研究分野：美術教育学

キーワード：シンガポール　多民族・多文化　美術教育　教育課程　国民統合

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

シンガポールの美術教育に関しては、研究代表者の佐々木及び研究分担者の福田による一連の研究によって、主として 1990 年代から現在までの特徴が明らかにされていた。1990 年代の美術教育は、中国・マレー・インドの民族文化を均等に教育内容として取り入れた多民族社会に配慮した特徴をもっていた。今世紀になってからは、知識経済に対応した創造性の育成と国民意識の涵養という観点から教育内容が組織されていることが確認されていた。

他方、多民族社会が形成された植民地時代や、住民の統合意識の形成が要された自治州及び独立期における美術教育の研究はなされていない状況にあった。このため、1950 年代のイギリス連邦自治州時代から、マレーシア連邦時代、さらに独立後今日に至る約 60 年余の時間の流れの中でシンガポールの美術教育の動向を捉え、多民族・多文化の複合国家における視覚文化の教育が、同国の国民統合にどのように作用していたか明らかにすることを着想した。

２．研究の目的

本研究の目的は、シンガポールの美術教育における約 60 年の教育課程と教材を調査し、多民族・多文化国家における視覚的文化に関する教育内容構築の原理と方法論を明らかにすることである。シンガポールは、それぞれ独自の言語、宗教、文化をもつ中国、マレー、インド系の住民からなる多民族・多文化国家である。このような複合社会における民族文化の多様性と国民統合は重要な内政課題であり、教育課題でもある。本研究では、英国植民地シンガポールが内政自治権を得た 1950 年代後半、さらに独立を果たした 1965 年から今日に至る美術教育課程の分析を通して、美術や工芸などの視覚的文化表象を、多様性と共通性の双方の価値を持つ教育内容として教材化し、教育課程を構築していく原理や方法論の変遷と国民統合政策との相関を考察する。

３．研究の方法

本研究では、独立前の自治州時代から今日に至る美術教育の教育課程と教育内容の変遷を把握するために、教育課程（シラバス）、教科書及び教材、教育制度に関する資料、教育省内のシラバス・教科書委員会の議事録などの文献・文書資料の収集を行った。シンガポール国立図書館、シンガポール国立文書館、南洋理工大学シンガポール国立教育学院図書館、南洋理工大学 Chinese Heritage Centre 図書館などにおいて資料調査をした。

また、美術教育の実践状況を把握するために、小学校及び中学校における授業の参観と担当美術教員へのインタビューを行った。過去の実践と比較するために、退職した美術教員へのインタビューも行った。

さらに、1980 年代に国内初の美術教科書の編集と刊行の指揮をとった元教育省附属カリキュラム開発研究所美術教育班長、1990 年代に第 2 版の教科書刊行の指揮を取った第 2 期の美術教育班長、1990 年代の美術の教科調査官へのインタビューを行った。

今世紀になってからの美術教育の動向については、南洋理工大学シンガポール国立教育学院の美術教育担当者から情報の提供を受けつつ、研究のレビューを受けた。

４．研究成果

本研究を通して、自治州時代から独立を経て今世紀に至るシンガポールの小学校及び中学校の美術の全教育課程（シラバス）及びこれらに対応した教科書、教師用指導書等の内容と特徴を把握した。これを通して、多民族・多文化社会における美術工芸文化の教材化と教育課程構築の原理、方法論の変遷過程を分析した結果、同国の美術教育は、多様な民族文化を教育内容として可視化しながら、これを現代的な世界的美術の文脈で再解釈することを通して、統合的な自国の美術文化を創出する機能をもつことを導いた。すなわち、シンガポールの美術教育は、「エスニシティの可視化を通した自国美術の創出」というモデルで説明できる国民統合の機能があることを明らかにした。

「エスニシティの可視化」には、シラバス等の記述によって民族的な文化表象を対象化していく段階、教科書等の視覚的メディアによって公認化していく段階、学校での教育実践によって標準化してく段階があると考えられ、これらをシラバスの変遷過程や教科書、教育実践の記録等を通して確認することができた。

また、1980 年代に刊行されたシンガポール初の美術教科書では、民族的な造形文化が視覚的に提示されているが、同時に自国の美術作家や作品も取り上げられており、自国の美術と美術史を教育内容として公式に位置づけることによる「自国美術の創出」が試みられていることが確認できた。1990 年代から今世紀にかけては、シンガポールの美術とその教育は、芸術文化産業振興策と連動しながら、現代美術を中心とした解釈や視覚リテラシー育成へと変化する。大規模な現代美術ビエンナーレや現代美術館の展示を通して、これらの変化を、知識基盤社会への対応を意識した新たな国民統合のための文化的象徴の可視化として位置づけることができた。

なお、本研究を通して導かれた「エスニシティの可視化を通した自国美術の創出」という美術教育の機能モデルは、多民族・多文化社会を内包する東南アジア社会においてもおおむね適用できることが確認された。

本研究は、アジアを対象とし、多民族・多文化社会におけるアイデンティティと美術教育の関係を扱った数少ない美術教育研究、教科教育研究の一つとして位置づけられる。また、今後

グローバル化への一層の対応が予想される日本の美術教育に対して、多文化教育に基づく美術教育の事例として示唆を与えるものである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　１０件）

① 佐々木　宰、多民族・多文化社会における美術教育の機能：アジアの美術教育に見るエスニシティの可視化、美術科教育学会誌、査読有、40 号、2019、1―10

② 王　宇鵬、福田　隆眞、美術文化の四層構造から見る台湾近代美術、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、47 号、2019、201―209

③ 福田　隆眞、シンガポールにおける近代美術の四層構造と美術教育、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、46 号、2018、209―217
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/yunoca/handle/B040046000022

④ 佐々木　宰、独立期のシンガポールにおける美術の動向と美術教育、北海道教育大学紀要（教育科学編）、査読無、68 巻 2 号、2018、495―509
http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/9650

⑤ 福田　隆眞、アジアにおける近代美術の四層構造と美術教育、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、44 号、2018、143-151
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/yunoca/handle/B040044000015

⑥ 佐々木　宰、シンガポールの美術教育における国民統合、大学美術教育学会誌、査読有、49 号、2017、177―184
DOI:10.19008/uaesj.49.177

⑦ 佐々木　宰、20 世紀初頭のシンガポールにおける近代美術教育、北海道教育大学研究紀要（教育科学編）、査読無、67 巻 1 号、2016、389―402
http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8033

⑧ 佐々木　宰、シンガポールにおける芸術教育の系譜（３）：1971 年及び 1973 年の小学校美術教育シラバスに基づいて、釧路論集（北海道教育大学釧路校研究紀要）、査読無、48 号、2016、49―60
http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8224

⑨ 佐々木　宰、シンガポールにおける 2009 年美術シラバスに基づく美術教育の実践状況、大学美術教育学会誌、査読有、48 号、2016、177―184
DOI: 10.19008/uaesj.48.177

⑩ 佐々木　宰、シンガポールにおける芸術教育の系譜（２）：1961 年の小学校及び中学校「美術工芸」シラバスに基づいて、釧路論集（北海道教育大学釧路校研究紀要）、査読無、47 号、2015、29―40
http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7917

〔学会発表〕（計　５件）

① 佐々木　宰、アジアの多文化社会における美術教育の役割：エスニシティの可視化、第 40 回美術科教育学会滋賀大会、2018

② 佐々木　宰、シンガポールにおける美術教育と文化政策、日本教科教育学会第 43 回全国大会、2017

③ 佐々木　宰、多民族・多文化国家シンガポールの国民統合と美術教育、第 55 回大学美術教育学会北海道大会、2016

④ 福田　隆眞、東南アジアおける美術教育の現状、ジャカルタ州立大学美術教育セミナー（招待講演）、ジャカルタ州立大学（インドネシア）、2016

⑤ 佐々木　宰、シンガポールの初等・中等学校における美術教育の実践状況、第 54 回大学美術教育学会横浜大会、2015

〔図書〕（計　１件）

①美術教育学叢書企画編集委員会、学術研究出版、美術教育学叢書２：美術教育学の歴史から、2019、233（199―212）

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：福田　隆眞

ローマ字氏名：Fukuda Takamasa

所属研究機関名：山口大学

部局名：その他部局等

職名：理事
研究者番号（8 桁）：00142761

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。